

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

1 工場概要

- ▶ 住所 : 愛知県小牧市大字東田中字西田100番地1
- ▶ 従業員数 : 87名 (その他再雇用社員6名、パート・アルバイト4名、協力会社26名) 合計123名
- ▶ 敷地面積 : 25,767m²



2 事業概要

- ▶ 事業内容
 - ・プラスチック製品の製造加工ならびに販売
 - ・管工事の請負施工に関する業務
 - ・上記に付帯する一切の業務
- ▶ 主要製品 本社工場
 - ・各種硬質塩化ビニル管
 - ・下水道用硬質塩化ビニル管
 - ・水道用ポリエチレン二層管
 - ・下水道推進工法用硬質塩化ビニル管
 - ・硬質塩化ビニル管用継手
 - ・ABS、PP、塩ビ等コアパイプ



3 工場変遷

- | | |
|-------------|---|
| 昭和27年11月26日 | 名古屋市に会社設立。軟質塩化ビニルシート、硬質塩化ビニル管用コンパウンド、各種押出成形品の製造販売を開始。 |
| 昭和31年 8月 | 硬質塩化ビニル管製造販売を開始。 |
| 昭和36年10月 | 本社及び工場を小牧市に移転。 |
| 昭和39年 7月 | 硬質塩化ビニルシートの製造販売を開始。 |
| 昭和56年 4月 | ポリエチレン管の製造販売を開始。 |
| 平成 2年10月 | 岐阜県美濃市に工場建設し、シートの生産を本社から移設して生産開始。 |
| 平成10年12月 | ISO9002審査登録 |
| 平成12年10月 | ISO14001審査登録 |
| 平成14年12月 | ISO9001:2000移行認証取得 |
| 平成17年 5月 | ABS製コアパイプ(巻き芯)の製造販売を開始。 |
| 平成17年 7月 | ISO14001:2004移行認証取得 |
| 平成21年 7月 | ISO9001:2008移行認証取得 |

4 環境方針

▶ ISO環境方針

日本プラスチック工業株式会社本社、本社工場及び美濃工場は、地球環境保全が人類共通の課題であり、企業の責務であることを認識し、環境保全に万全の配慮と不断の努力を行います。

- 1) 硬質塩化ビニル管及び2次加工品の製造、ポリエチレン等のプラスチック管の製造、ポリスチレン・ポリエチレン等のプラスチックシート及びプレートの製造における生産活動で、環境マネジメントシステムを構築し、継続的維持、改善及び汚染の予防を図り、以下の環境保全に努めます。
 - ① 廃棄物のリサイクル化及び減量化を推進します。
 - ② 設備や機器の高効率化と生産プロセスの改善により電力等の省エネルギーを推進します。
 - ③ 技術的、経済的に可能な範囲で騒音レベルの改善及び水質汚濁防止を推進します。上記の環境目的及び目標を定めると共に、それらの達成のため環境マネジメントプログラムを作成し、その推進に当社で働く全ての人が一丸となって努力します。
- 2) 環境関連法、条例及び当社が同意したその他の要求事項を順守することに努めます。
- 3) 地域との調和を図ると共に、地域の環境保全活動に積極的に参加します。
 - ・この環境方針は、教育及び啓蒙活動を行い、当社で働く全ての人に周知徹底を図ります。
 - ・この環境方針は、一般の人でも入手できます。

平成23年4月1日
日本プラスチック工業株式会社
代表取締役社長
住田和正

▶ ISO認証取得状況

平成12年10月	ISO14001(財)日本規格協会に審査登録(JSAE276)
平成13年10月	ISO14001第1回定期維持審査実施
平成14年10月	ISO14001第2回定期維持審査実施
平成15年 9月	ISO14001第1回更新審査実施
平成16年 7月	ISO9001第2回更新審査、ISO14001第1回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成17年 7月	ISO9001第2回-1定期維持審査、ISO14001第1回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成18年 7月	ISO9001第2回-2定期維持審査、ISO14001第2回更新審査(Q/E複合審査)実施
平成19年 7月	ISO9001第3回更新審査、ISO14001第2回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成20年 7月	ISO9001第3回-1定期維持審査、ISO14001第2回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成21年 7月	ISO9001第4回更新審査、ISO14001第3回更新審査(Q/E複合審査)実施
平成22年 7月	ISO9001第4回-1定期維持審査、ISO14001第3回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成23年 7月	ISO9001第4回-2定期維持審査、ISO14001第3回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施

5 環境保全中期計画 目標及び実績

課題	テーマ	管理指標	基準年度	2010年度			
				目標	実績	自己評価	目標未達の理由
地球温暖化防止	CO2の削減	CO2排出原単位	2008	▲4%	19%	×	生産金額減少のため
		CO2排出量	2008	▲4%	10%	×	生産量増加のため
	物流のCO2削減	CO2排出原単位	2008	▲2%	▲40%	◎	
循環型社会の形成	廃棄物の削減	排出原単位	2008	▲4%	▲14%	◎	
	ゼロ・エミッション	埋立比率	—	0.5%以下	1.1%	×	生産量増加のため
	水資源の節約	水使用量原単位	2008	▲2%	18.3%	×	夏場の製品冷却に水量が増加したため
有害化学物質の削減	PRTR法対象物質の削減	排出移動原単位	2008	▲4%	▲28%	◎	

※自己評価の基準 ◎:目標超過達成 ○:目標達成 ×:目標未達成

注)環境保全中期計画のCO2排出量実績値の算定の際は、2008年度のCO2排出係数を使用しています。

6 環境会計

① 環境投資

2010年度: 187 万円

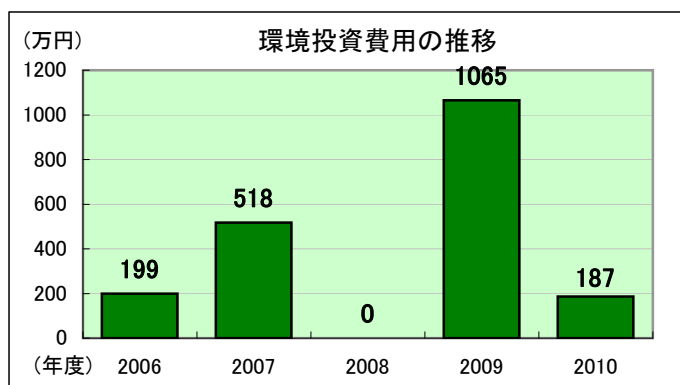
ISO認証取得時(2000、2001)に環境投資を多く行いましたが、2003年以降は横ばい状況にありました。

2007年度は製品倉庫の防じん対策として、シャッター設置を実施し、久しぶりに大きな環境関連の投資を行いました。

2008年度の環境関連投資はありませんでした。

2009年度は、省エネ型コンプレッサーに更新、押出機用真空ポンプ入替(電気容量ダウン)生産ラインの塩ビ用粉砕機入替(電気容量ダウン)、粉砕場防音壁設置などを実施しました。

2010年度は、生産ラインの塩ビ切粉用粉砕機入替(電気容量ダウン等)を実施しました。



日本プラスチック工業株式会社 本社工場

② 環境保全効果

2010年度は、前年度より生産量が増加した為、エネルギー使用量、廃棄物排出量とも増加しました。

効果の内容	効果	2009年度	2010年度	効果	対前年度比
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)※	105,785	108,202	2,417	102.3%
	水使用量(m ³)	107,810	99,361	▲ 8,449	92.2%
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO ₂ 排出量(t)※1	5,018	5,332	314	106.3%
	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	NO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	ばいじん排出量(t)	—	—	—	—
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	0.007	0.008	0.001	114.3%
	廃棄物排出量(t)※2	14.7	20.8	6.1	141.5%
	廃棄物埋立量(t)	1.8	3.1	1.3	172.2%

※1:車両燃料分を含んでいません。

※2:2009年度の実績値を訂正しました。

③ 経済効果

2010年度：731万円

2005年度(平成17年)下期から生産時に発生する塩ビ廃棄物を有価物化を開始しました。

2008年度(平成20年)廃油(機械油)、段ボール・雑誌類の有価物化を開始しました。

2009年度(平成21年度)PPバンド、PEビニールの有価物化を開始しました。

2009年度(平成21年度)省エネ型設備への更新、モータ容量ダウンを行いました。

2010年度(平成22年度)前年度同様、省エネ型設備への更新及びモータ容量ダウンを行いました。

分類	内容	年間効果
省エネルギー対策	<ul style="list-style-type: none"> 工場エア用コンプレッサーを省エネ型に更新 押出機用真空ポンプ入替えによるモータ容量ダウン効果 冷却水用ポンプ容量ダウンによる電力削減 切粉用粉碎機変更によるモータ容量ダウン効果 押出機更新によるモータ容量ダウン効果、その他 	408 万円
ゼロ・エミッション化対策	廃棄物の有価物化	323 万円
合計		731 万円

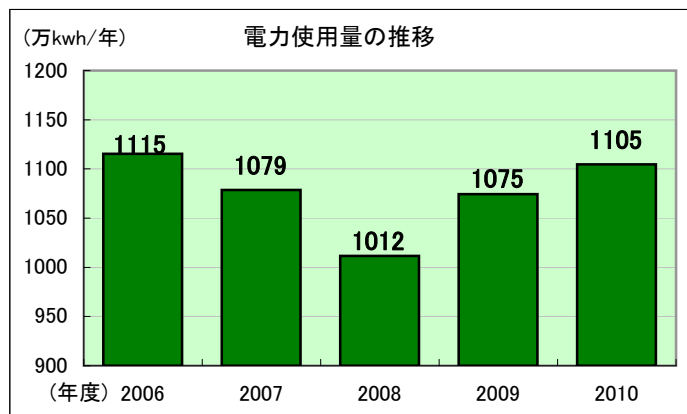
日本プラスチック工業株式会社 本社工場

7 環境パフォーマンス

① 地球温暖化の防止

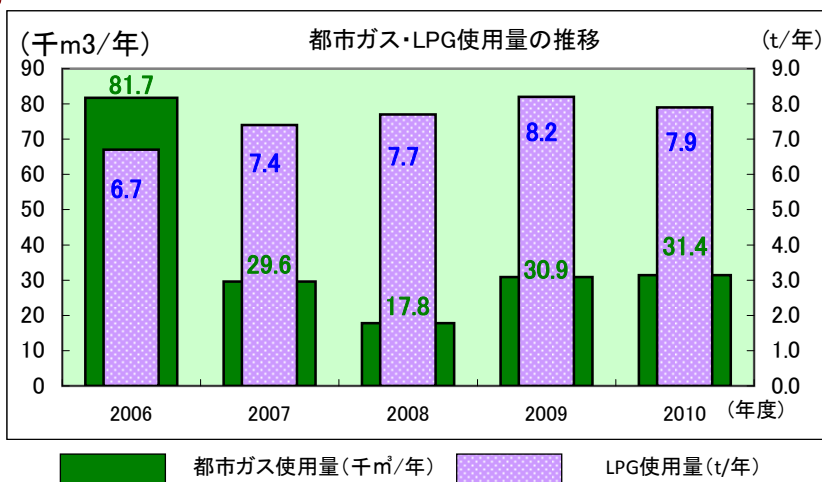
省エネルギー活動 電力使用量の削減

2009、2010年度と生産量が増加し、2008年度に比べて電気使用量が増加しています。



都市ガス・LPG使用量の削減

2009、2010年度と生産量が増加し、2008年度に比べて都市ガス使用量が増加しています。

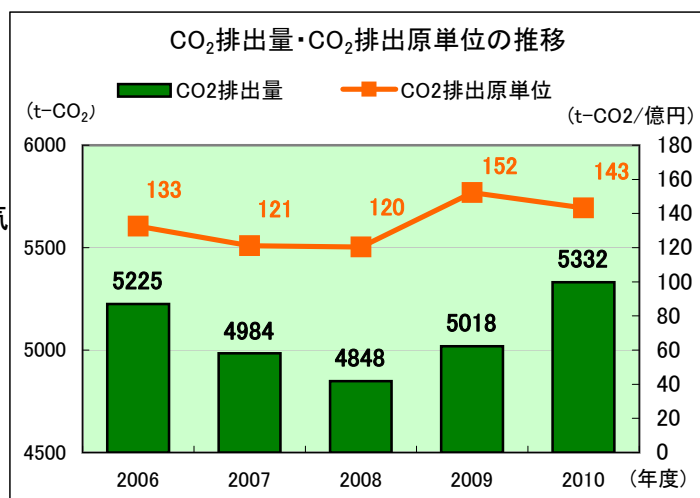


CO₂排出量の削減

※ 平成22(2010)年度の目標値は、平成21(2009)年度を基準として、1%削減することとしています

2009、2010年度と生産量が増加し、電気使用量の増加に伴い、CO₂排出量も増加しています。

CO₂排出原単位は、省エネ対策等で前年度(2009年)より削減できました。



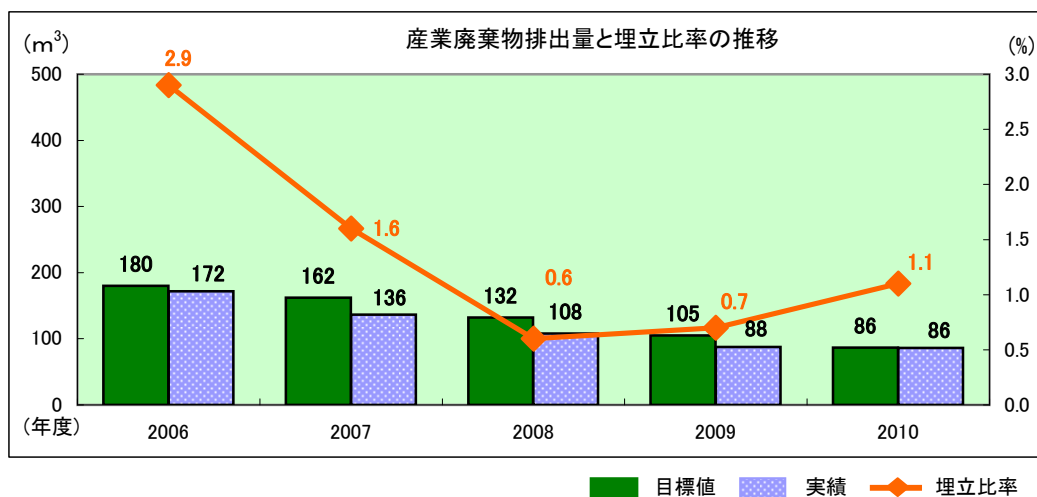
※車両燃料からの排出量を含んでいません。

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

② 循環型社会の形成

廃棄物排出量の削減

2005年度より塩ビパイプ屑の有価物化を実施しており、年々減少傾向にあります。
2009年、2010年と生産量増加に伴い、埋立量が増加し、埋立比率がアップしています。



注: 埋立比率(%) = (直接埋立量 + 中間処理後最終埋立量) ÷ (有価物量 + 廃棄物排出量)

ゼロ・エミッション化

2005年度からリサイクル率95%以上を目標に取り組んでおります。

	2006	2007	2008	2009	2010
目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
実績	96.3	95.7	96.2	97.3	97.5
達成率(%)	101.4	100.7	101.3	102.4	102.6

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

③ 有害化学物質の削減

PRTR法対象物質の排出量・移動量

本社工場

(kg)

政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
305	鉛化合物	3.0	—	—	—	—	5.0

8 環境コミュニケーション

① 地域の皆様との交流

本社工場

- 名称 小牧山(史跡公園)美化活動「春の小牧山を美化ウォーク」に参加
日付 平成22年4月17日
- 名称 東田中地区盆踊りに参加および寄付
日付 平成22年8月
- 名称 東田中地区秋祭りに参加および寄付
日付 平成22年10月

② 地域美化活動

本社工場

- 名称 環境月間本社工場周辺清掃活動
日付 平成22年6月16日
参加人数 16名



- 名称 小牧市「ごみ散乱防止市民行動の日&小牧まち美化ウォーク」小牧市民会館周辺清掃活動
日付 平成22年10月2日
参加人数 2名



- 名称 年末本社工場周辺清掃活動
日付 平成22年12月29日
参加人数 32名



日本プラスチック工業株式会社 本社工場

9 サイトデータ～本社・本社工場

▶ INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	2,805
----------	---------	-------

※車両燃料を含んでいます

水使用量	万m ³	9.9
------	-----------------	-----

▶ OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	5,332
---------------------	-------------------	-------

排出ガス	主要ばい煙発生施設		—		
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値
	SO _x	総量規制・ K値規制ともにm ³ N/h	ばい煙発生施設なし		
	NO _x	総量規制:m ³ N/h, 濃度規制:ppm			
ばいじん	g/m ³ N				

排水量	公共用水域	万m ³	9.9
	下水道	万m ³	—
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

2010年6月15日実施

排水	放流先	項目	単位	排水口名:パイプ工場		排水口名:加工工場	
				規制値	測定値	規制値	測定値
				公共用水域	pH	—	5.8~8.6
BOD	mg/l	160	0.3		160	0.7	
COD	mg/l	160	<0.5		160	1.2	
SS	mg/l	200	1.0		200	1.0	
N-ヘキサシアン	mg/l	5	<1		5	<1	
鉛及びその化合物	mg/l	0.1	<0.01		0.1	—	
亜鉛	mg/l	2.0	0.3		2.0	—	
COD総量規制値	kg/日	—	—		—	—	
窒素総量規制値	kg/日	—	—		—	—	
りん総量規制値	kg/日	—	—		—	—	
下水道	pH	—	—	—	—	—	
	BOD	mg/l	—	—	—	—	
	COD	mg/l	—	—	—	—	
	SS	mg/l	—	—	—	—	

廃棄物排出量	t	21
埋立比率	%	1.1